

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑨

名前

「

」

ほととぎす鳴きつるかたを眺むれば

ただ有明の月ぞ残れる

後徳大寺左大臣
ごとかだいじのさだいじん

思ひわびさても命はあるものを

憂きにたへぬは涙なりけり

道因法師
どういんほうし

世の中よ道こそなけれ思ひ入る

山の奥にも鹿ぞ鳴くなる

皇太后宮大夫俊成
こうたいこうぐうのだいぶとしなり

ながらへばまたこのごろやしのばれむ

憂しと見し世ぞ今は恋しき

藤原清輔朝臣
ふじわらのきよすけあそん

夜もすがら物思ふころは明けやらで

閨のひまさへつれなかりけり

俊恵法師
しゅんえほうし



名前 へ

く

嘆^{なげ}けとて月^{つき}やは物^{もの}を思^{おも}はする

かこち顔^{がお}なるわが涙^{なみだ}かな

西^{さい}行^ぎ法師^{ほうし}

村^{むら}雨^{さめ}の露^{つゆ}もまだひぬまきの葉^はに

霧^{きり}たちのぼる秋^{あき}の夕^{ゆう}暮^{ぐれ}

寂^じ蓮^{やく}法師^{れんほうし}

難^{なに}波^に江^わの蘆^{あし}のかりねのひとよゆゑ

みをつくしてや恋^{こい}ひわたるべき

皇^{こう}嘉^か門^{もん}院^{いん}別^{べつ}当^{とう}

玉^{たま}の緒^およ絶^たえなば絶^たえねながらへば

しのぶることの弱^{よわ}りもぞする

式^し子^{よく}内^し親^{ない}王^{しんのう}

見^みせばやな雄^お島^{じま}のあまの袖^{そで}だにも

濡^ぬれにぞ濡^ぬれし色^{いろ}はかはらず

殷^{いん}富^ぶ門^{もん}院^{いん}大^{たい}輔^ふ